



Title	復帰準備2(愛知外相講演記録 外務省外交史料館レファレンス番号 : H220923)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(2)No.3 公開日 : 平成22年11月26日 外務省外交史料館管理番号 : B'5.1.0.J/U24 CD・DVD番号 : H22-006
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43399
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

有樂齋
愛知外相講演記錄

アメリカ局長
安全保障課長
参事官
北米第一課長

秘密標記 (赤色)
秘

第 513 号
昭和 46 年 8 月 26 日

外務大臣殿

在準備委代表事務所
高瀬代

(件名)
未完成プロジェクト

引用公・電信
日付・番号
貴信米北1合才3535号

8月25日の池田軍務局との定期連絡
会議の際に、小林指導課長より本件に關
する8月20日東京における各者会議の内容等
(8月23日付)
を以て同課長と民政府外務省討論局長及び
付属添付 付属空便(行) 付属空便(DP) 付属船便(貨) 付属船便(郵)

本信送付先:
本信写送付先:
省内写配布希望先:

GA-3-1 在外公館

金子
マ

要処理
事務官
務
繩
調査
業
空
協力
調整
査
力
局

46.8.27

7 海外局長との非公式会談の様相につき別紙
の通り説明があるため、参考までに報告する。

GA-4 外務省

部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

507

大政事外務省
事務次長
典房
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営総

電信写

総番号(TA) 39488 主
71年8月17日13時25分 沖 絶 発
71年8月17日13時34分 本 省 着

外務大臣殿 高橋 大使 臨時代理大使 総領事 代理

シマダ防衛施設庁長官の来ちゆう(ヤラ主席との会談)

第854号 略 至急

5日午後行なわれたシマダ長官とヤラ主席との会談中特に注目される点次の通り。(委細公信)

長官: 返かん協定で88施設の提供が決つており、このための土地問題が大変な作業である。現在タニダテ次長以下20人の職員ではどうにもならないので増員して復帰時に施設局の設置を考えている。

労務問題については、復帰時に間接雇用に移行し、雇入れ、労務管理、給与の支払い等の事務はげんに委任する。このため主務課、労管を設置していただくことになる。復帰前に人員を集めて給与の支払い等の事務能力をつけてもらう必要がある。当初基幹要員を養成し、その後他の職員の養成に当る。規模は250人位、復帰のよき月から給与の支払いを開始することとなる。

主 議 現在りゆう政の労務局渉外労働課に1人しかいない。これの強化ということになる。準備をするにも労働局長と話したが、未だ具体的になつていないという事だつた

調査長 参企析調
領移長 参領旅査
ア 参地中東
長 北西
参北北保
中南審 参一二
欧 参西東洋
長 西東
近ア 参書近ア
経 次総経国
長 参質統
経協長 参政技二
長 国一理
参参協規
国 参政経科
長 軍社專
情 参道内外
文長 一二

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

アンザイ労務部長: 労働条件、給与条件は軍、組合と話し合いて本土なみに切替える。事務的な問題は今からでもわかっているので準備は始められるが、事前に人を集めるのが難しいと聞いている。

主席: 急に補じゆうすることは難しい。予算の関係もある。

長官: 予算は復帰後は施設庁が計上しげんに渡す。復帰前は復帰対策費に計上してある。人件費は全体のドンブリのやりくりだと聞いている。研修旅費、事務費は計上してある。

主席: 事務所は新しく作る必要がある。1カ所という訳にはいかない。

アンザイ: 最低2カ所は必要だ。

主席: 増員なしの人員やりくりは非常に難しい。各局が開くかどうか。人数はどれ位必要か。

アンザイ: 復帰の時点までに段階的に増員して約250人、復帰後はそのまま行く。

主席: げんになつた時点では動かせる。復帰前に250人というのは大変だ。

アンザイ: 基幹要員は目途がついたと聞いている。その後の割り振りを早目に願いたい。

外務省

秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

主席：間接雇用にしてもこれ以上に道はないことは理解している。よくみんなに理解させる必要がある。

長官：よろしく願います。給与条件、労働条件はわれわれと米軍、全軍労とてやっついていくので御めいわくはかけない。事務的には今後も労働局と相談していきたい。

主席：これは大事な問題だ。基地労働者に安定感を与えるために必要だ。

長官：土地の問題は土地連とやるが、主席の側面からの援助を得たい。

主席：基地の契約に反対している動きもあるが好むと好まぬとにかかわらず事実としてどう乗り切るかが大切だ。困難とは思いますがやっつて行かねばならぬ。

(了)